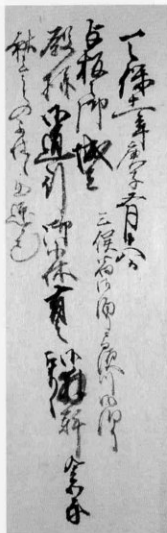
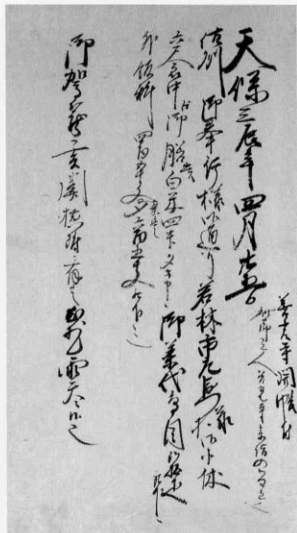


本陣の記録



天保三辰年四月二十五日

善光寺開帳に付き

この節主人善光寺参詣の留主守也

佐州御奉行様御通行若林市左衛門様御小休

六尺狭中へ御膳出す、白米四升たま申し候。御茶代、烏目二十疋下され候

外飯料四百五十文余これ有り、六百五十文下され候也

御駕籠玄関横附にこれ有り、尤も少し雨天に候也

天保十一年庚子五月十八日

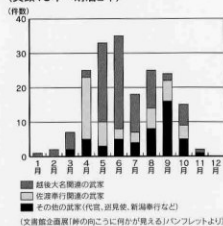
与板の御城主 三侯宿御泊まりにて須川御泊まり

殿様御通行御小休これ有り、御拝料金二朱下され候

献上もの仕らず候、出迎のみ

*佐州奉行／佐渡奉行／六尺(駕籠を担いだり荷物を運ぶ人足)／烏目(錢の異称)／与板の御城主 越後国与板藩主井伊直経

永井本陣記録にみる武家の月別通行件数
(文政13年～明治2年)



この文書は、三国街道永井宿(現新治村永井)で本陣職を務めていた笛木四郎右衛門家に伝わる記録です。文政13年(1830)～明治2年(1869)の諸大名の体泊記録で、本陣の事務上の備忘録的なことが記されています。本陣は、幕府役人や参勤交代の諸大名、勤使、院使、宮門跡、公家などが旅行する際の体泊施設です。本陣職を務めた家はその地域の名家で、笛木四郎右衛門家も本陣、間屋暮年寄、永井村・吹露村の名主を務めていました。

この部分では、佐渡奉行と与板藩主井伊直経の小休止について記されています。また、人足にも食事を出したことや受け取った代金も書かれています。三国峠を越えた武家は、越後の諸大名、佐渡奉行とその家来がほとんどでした。越後国の大名家は牧野家(長岡藩主)、井伊家(与板藩主)、堀家(村松藩主)の往来が多かったようです。佐渡奉行は、1時期を除いて2人が交替で務めました。この記録にも1年間に2人の佐渡奉行の名前が登場する場合があります。越後の大名、佐渡奉行の旅程の段取りを付ける役人も数多く往来しています。これらの通行は春から秋に集中し、積雪の多い冬の通行はほとんどありませんでした。

(参考資料)『群馬県史』通史編5 725～734頁